

提言第13号 胃瘻造設・カテーテル交換に係る死亡事例の分析

事例12

< 事例概要 >

（胃瘻カテーテル交換）

・ 80 歳代、脳出血で他医療機関に入院中の患者。失語症あり意思疎通困難、四肢拘縮あり。BMI不明。

・ 3 年半前、当該医療機関で胃瘻造設。6 か月ごとに、同医療機関で胃瘻カテーテルを定期交換し、7 回目の交換で外来を受診（交換前の胃瘻カテーテルはバンパー型）。

・ X線透視下でガイドワイヤーを使用し、バンパー型カテーテルを挿入。X線造影検査でカテーテル先端が胃内に留置していることを確認。

・ 他医療機関に戻り、初回の栄養剤注入後に少量嘔吐し、発熱あり。2 回目の栄養剤を注入開始後に嘔吐、発汗、38 度台の発熱、顔面蒼白あり。CT検査で腹腔内遊離ガスおよび、右横隔膜下に液体貯留を認め、当該医療機関へ救急搬送。緊急手術で腹腔内洗浄を実施、瘻孔近位の胃壁に穿孔を認め、交換翌日に死亡。

・ 死因は、汎発性腹膜炎。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。